

使用年代

昭和のはじめごろ

使い方

洗剤を溶かしたお湯と洗濯物を入れて、ハンドルを回して使いました。



現在の道具

電気洗濯機

てまわ
手回しせんたくき

使用年代

大正～昭和30年代

使い方

中に氷を入れて冷やしました。氷は毎日氷屋さんで買っていました。



現在の道具

電気冷蔵庫

こおり
氷れいぞう庫

使用年代

明治～昭和

使い方

1週間に1回ほど、ネジを回して使いました。針が止まったときは、お寺の鐘やラジオの時報に合わせました。



現在の道具

電波時計・デジタル時計

はしうどけい
柱時計

使用年代

昭和30年代～40年代

使い方

画面横のダイヤルを回してチャンネルを選びました。リモコンはありませんでした。



現在の道具

カラーテレビ・液晶テレビ

しろくろ
白黒テレビ

使用年代

明治～昭和30年代

使い方

フタを開けて火のついた炭を入れて、その熱でシワを伸ばしました。



現在の道具

電気アイロン

すみび
炭火アイロン

使用年代

昭和のなかごろ～おわりごろ

使い方

数字が書いてある穴に指を入れて回して電話をかけました。指を離すとダイヤルがもともど元に戻るの、ひとつずつ回しました。



現在の道具

携帯電話・スマートフォン

しきでんわ
ダイヤル式電話き

使用年代

大正～昭和のはじめごろ

使い方

中に電球のような真空管が入っていて、音を出します。スイッチを入れても温まるまでは音が出ませんでした



現在の道具

ラジオセ

しんくう
真空かんラジオ

使用年代

江戸～昭和30年代

使い方

周りの羽をかまどの穴に引っかけて、火の力を利用してご飯を炊きました。



現在の道具

電気炊飯器

は
羽がま

使用年代

明治～昭和のはじめごろ

使い方

ハンドルを回してゼンマイを巻くと、レコードが回りました。針がレコードの溝を通るときの振動で音が出ます。



現在の道具

CD・携帯音楽プレイヤー

ちく音き
ちく音き

なつかしい昔の道具とくらし

電気やガスがなかった頃、人々は何をすることも手作業で行っていました。服や道具は手作りをし、食事も自給自足で外食はしませんでした。昭和30年代になると電化製品が普及し、生活や暮らしが大きく変わりました。今では見かけなくなったなつかしい昔の道具と暮らしをケヤッキーが紹介します。



五右衛門風呂はどんなお風呂だったの？

五右衛門風呂は西日本から広まった古い形のお風呂をだよ。木製か鉄製の桶風呂で、薪を使って水を沸かしたんだ。五右衛門風呂は、土台に鉄の釜をすえ、薪を下で燃やして水を温めたよ。底はとても熱いので底板がないと入れなかったけど、周りの鉄は触ってもヤケドする心配はなかったよ。お湯が熱くなりすぎないように、薪や水で火の加減を調節するのが大変だったんだ。薪を使って沸かしていたときは、沸かすのに30分くらいかかったよ。昔はお風呂のある家は少なく、共同で使うことも多かったから、毎日お風呂に入っていなかったんだ。



昔はどうやって家を建てていたの？

現代の建物にはコンクリートの基礎があって、土台などとしっかり繋がっているけど、古民家やお寺などは土の上に大きな石を置き、その上に柱を乗せていたよ。柱と柱は釘や金具を使わずに木と木を組み合わせていたんだ。現代の家は「地震に耐える」耐震（揺れにくい）の考え方で家が建てられるけど、古民家などの「石場建て」は免震（地震に抵抗せずがまに揺れる）の考え方で建てられていたんだ。地震に抵抗せずに家自体が地震と共に揺られることで、地震のエネルギーを吸収せずに逃がす方法を使っていたよ。



洋服はいつ頃から着られるようになったの？

鎖国が解かれた明治時代頃から、上流階級の人を中心に広まっていったよ。その後、大正時代から昭和初期に一般に広まったけど、戦争が始まると国民服や婦人標準服と呼ばれる服装に統一されるようになったんだ。戦時中は空襲などから逃げるために動きやすい服装が重視されていたけど、戦争が終わると洋服ブームが起き、家庭用ミシンも広まって、ファッションとしての洋服が定着していったんだ。



「三種の神器」って何のこと？

「三種の神器」とは、歴代天皇家に伝わる剣・鏡・勾玉の3つの宝物のことだよ。1950年代の日本ではこれになぞらえて新しい生活・消費習慣を表すキャッチコピーとして「白黒テレビ」「洗濯機」「冷蔵庫」の家電三品目が「三種の神器」と呼ばれたんだ。その後1960年代になると「カラーテレビ」「クーラー」「自動車」の3つが「新・三種の神器」と呼ばれ、それぞれの頭文字をとって「3C」と呼ぶこともあったよ。



井戸はどうやって使っていたの？

井戸掘りを仕事にしている人がいて、その人に頼んで作ってもらったよ。「ツルベ」と呼ばれる道具に縄をつけて、滑車を利用して水を汲んだんだ。深さは一般的には5～8mくらいで地下水を利用していたよ。地下水は温度が一定で凍らないから、井戸水は夏は冷たく感じ、冬は温かく感じたんだ。



昔は食べ物をどうやって冷やしていたの？

昔は食べ物も質素で買ったその日のうちに食べていたから、冷蔵庫はほとんど必要なかったよ。夏は川や井戸の冷たい水を利用して野菜などを冷やしていたんだ。氷冷蔵庫が発明されてからは、主に生ものの保存に使われたよ。



昔の給食はどんなメニューがあったの？

飲み物は脱脂粉乳で、1960年代頃までは完全パン給食だったよ。当時は豚肉や鶏肉が高価だったから、安い鯨肉が主流だったんだ。1960年代頃からはソフト麺が中心になり、瓶に入った牛乳が出されるようになったよ。ご飯は1970年代頃からは出るようになったんだ。



今の道具と昔の道具で、使い方が大きく変わった道具は何があるの？

昔の洗濯はたらいの中で、石けんをつけた洗たく物を洗たく板のギザギザにこすりつけるようにして手で洗い、水気も手でしぼっていたよ。真冬でも、川や井戸の水を使って洗濯板で洗濯をしていたから大変だったんだ。今では洗濯機で、洗濯・すすぎ・脱水・乾燥まで全部自動でできるようになったから、洗濯がとても楽になったよ。



昔の教科書はなぜカタカナで、右から左へ読んだの？

昔は直線的で画数の少ないカタカナのほうが、ひらがなより覚えやすいと考えられていたよ。縦書きが右から左に書くように、横文字は縦が1文字しかない縦書きと考慮されていたから、横書きでも右から左に書いていたんだ。1947年に「ひらがな優先」の教科書になって、これ以来ひらがなが主流になり、カタカナは外来語専用という習慣になったよ。



車のない時代の移動手段は、どんなものがあつたの？

車が発明されるまでは、人力車や馬車を使っていたよ。一般家庭に車が広まるまでは、バスや路面電車・蒸気機関車で遠くまで移動していたんだ。お金のある人はタクシーも利用していたよ。1950年代頃になると高度経済成長期によって人々の暮らしが豊かになり、庶民でも車が持てるようになったんだ。



昔の授業にはどんな科目があつたの？

国語・算術・書き方・図画・体操・唱歌・修身などの科目があつたよ。「修身」という授業は終戦まであつたんだ。昔は算数を算術と言ったように道徳を修身といったよ。修身は天皇陛下や偉人の話、しつけ（マナー）の話が多かったよ。